

瓦屋根の耐風性能に関する技術座談会

主催：愛知県、三河窯業試験場運営協議会

共催：一般社団法人全日本瓦工事業連盟(全瓦連)、全国陶器瓦工業組合連合会(全陶連)

近年、台風の強大化や竜巻などの激しい突風の影響による建築物の屋根被害が多数発生しています。そこで、三河窯業試験場では、瓦屋根の耐風性能や評価技術に関する最新の研究動向に関するセミナーを会場及びオンライン開催形式で開催します。

本セミナーでは、2020年12月に改正された建築基準法の告示基準に基づき作成された2021年改訂版「瓦屋根標準設計・施工ガイドライン」に準じて施工された瓦屋根と、留付が不十分な瓦屋根のとの実大強風雨発生装置による耐風性能比較評価について、最先端で活躍する研究者を講師としてお招きし、分かりやすく解説していただきます。

参加費は無料です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

【日 時】2024年12月13日（金）午前10時から正午まで（受付午前9時30分～）

【開催形式】(1)会場 あいち産業科学技術総合センター産業技術センター三河窯業試験場

本館2階講堂（碧南市六軒町2丁目15 電話:0566-41-0410）

(2) Web 会議システム「Microsoft Teams」によるオンライン配信

※オンライン配信は、映像及び音声の配信です。講演資料の配布、質問の受付はございません。

【定 員】会場36名、オンライン50名（いずれも申込先着順）

【参加費】無料（ただし、オンライン参加の通信機器代・通信料は自己負担です。）

【内 容】

テーマ 「実大強風雨発生装置による瓦屋根の風圧測定及び飛散実験」

講 師 国立研究開発法人 建築研究所 構造研究グループ 主任研究員 たかだて ゆうき 高館 祐貴 氏

経 歴 2019年建築研究所に入所。入所年に令和元年房総半島台風や令和元年東日本台風等の被害調査を実施。2020年に国土交通省住宅局建築指導課にて昭和46年建設省告示第109号（屋根瓦の緊結方法）等の改正等に携わる。2021年より建築研究所にて台風や竜巻の被害調査や風洞実験や数値流体解析を用いた風荷重評価をはじめとした研究を幅広く行っている。2021年改訂版「瓦屋根標準設計・施工ガイドライン」においては、ワーキンググループ委員及び編集委員会委員として尽力し、当ガイドラインの普及に力を入れている。また、2022年度から2024年度まで、全陶連及び全瓦連と共同で「実大強風雨発生装置を用いた屋根瓦の耐風性能に関する研究」を実施している。

講 師 摂南大学 理工学部 建築学科 おくだ やすお 特任教授 奥田 泰雄 氏

経 歴 大阪市立大学工学部、京都大学防災研究所を経て、1999年建設省建築研究所（現国立研究開発法人建築研究所）に入所。入所以来、地震だけでなく、台風や竜巻などの強風、津波、洪水、土砂災害など、様々な自然災害による建築物被害に関する調査や研究に従事。2021年改訂版「瓦屋根標準設計・施工ガイドライン」においては、ワーキンググループ主査及び編集委員会委員として尽力し、当ガイドラインの普及に力を入れている。また、2022年度から2024年度まで、全陶連及び全瓦連と共同研究「実大強風雨発生装置を用いた屋根瓦の耐風性能に関する研究」を実施している。2024年4月より摂南大学理工学部建築学科特任教授。

